



みんなで創る！にぎわいのある廃校 ～知恵伊豆の実践～



かわべえ かわみん

【川島町マスコットキャラクター】

2024年8月21日

川島町政策推進課
主事 笛木 知朗



■川島町について



人口：18,779名（8,276世帯）※令和6年7月1日現在

面積：41.63km²（縦7.9km 横11.2km）

埼玉県のほぼ中央で都心から45km圏内

町内に鉄道がない

隣接市の駅から車で約15分圏内

公共交通は東武東上線・JR高崎線に接続する
バス及びタクシーのみ

関越自動車道練馬ICから圏央道川島ICまで
約24分と車での都心からのアクセスは良好

圏央道川島ICを中心に物流施設が発展





■川島町について



水の流れとともに歩んできた川島町

歴史の中で洪水が繰り返されてきたが、肥沃な土が運ばれたことにより、農業が発展。

河川改修や堤防を築くことにより、水害を克服してきた一方、住民も水害に備えた助け合いの精神が根付いている。



川島町の特徴・特産



白鳥飛来地



金笛しょうゆパーク



遠山記念館



- 白鳥
- 田園風景

- コスモス畑
- 菜の花畑
- パラの小径
- イルミネーション

- 町の四方を河川に囲まれる特殊な地形
- 川沿いには自転車道が整備されている等、サイクリストも多く来訪



コメ



イチゴ



すったて



■川島町の将来像・理想像

2040年までに

- 各地区にある**廃校に、公民館の代わりとなる地域交流の場が整備**されている
- 民間活力により、**地域住民の交流に加え、町外から観光客等の流入**が図られる
- 地域をつなぐ**新たな公共的交通ネットワークが構築**されている
- 川島IC周辺を中心に**産業基盤が整備**されている



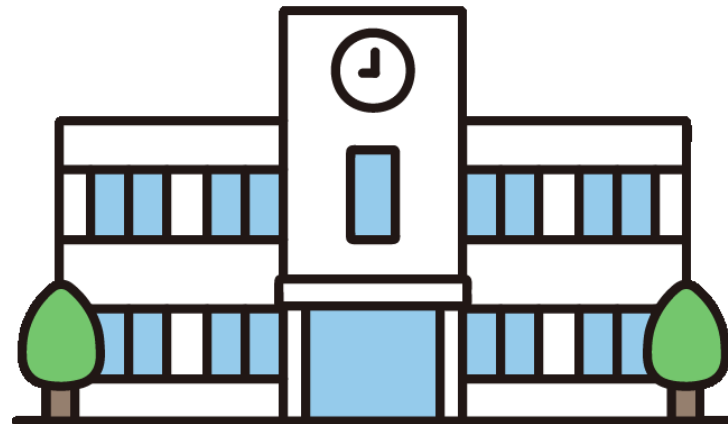
■川島町の将来像・理想像

気軽に相談ができたたり
子どもの遊び場になった！



休憩ついでに
川島町のことを
知れた！

地域のつながりが
できた！





■川島町の現状

人が減って活力が
なくなった気がする…

外出するた
めの移動手段が
ない…

この先も町に残る
べきだろうか…

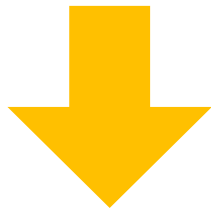




川島町の現状

人口の推移

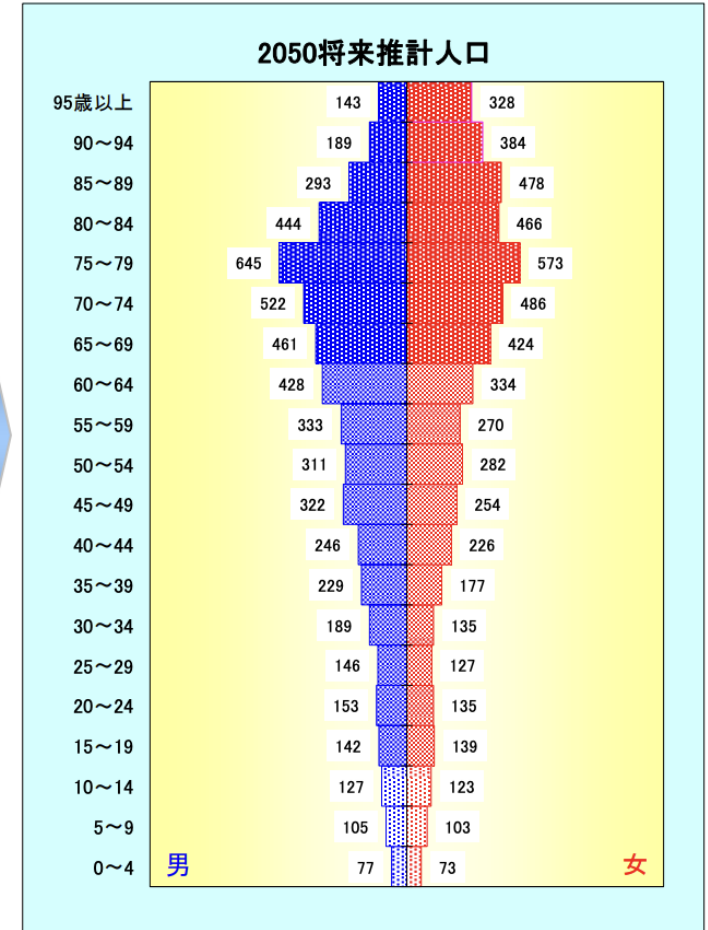
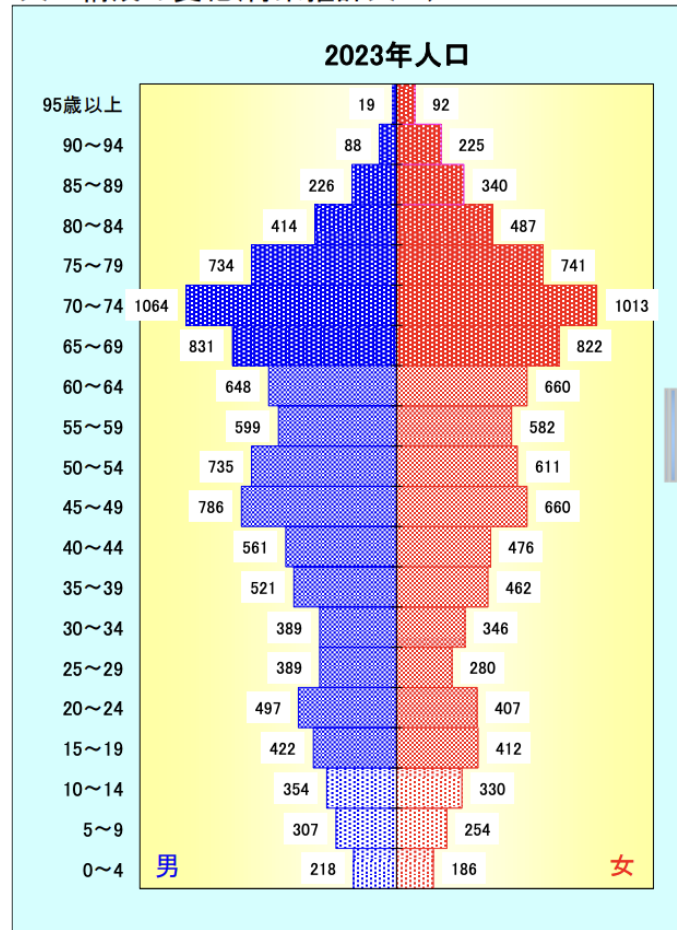
23,322人
(2000年)



18,779人
(2024年現在)

20%減少

人口構成の変化(将来推計人口)



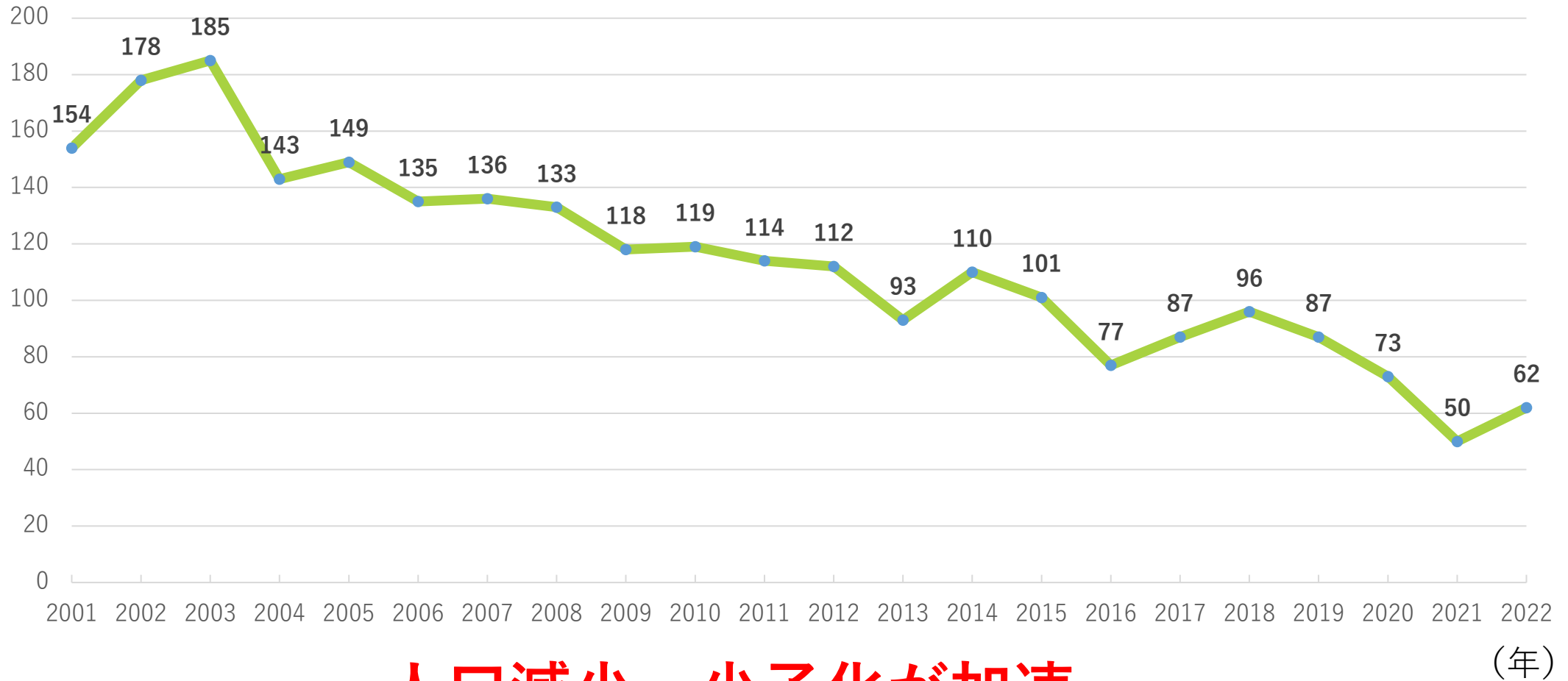
資料: 埼玉県町(丁)字別人口調査

資料: 国立社会保障・人口問題研究所
「日本の市区町村別将来推計人口(2023年推計)」
(2020年国勢調査人口を基準に推計)



■川島町の現状

年間出生数の推移

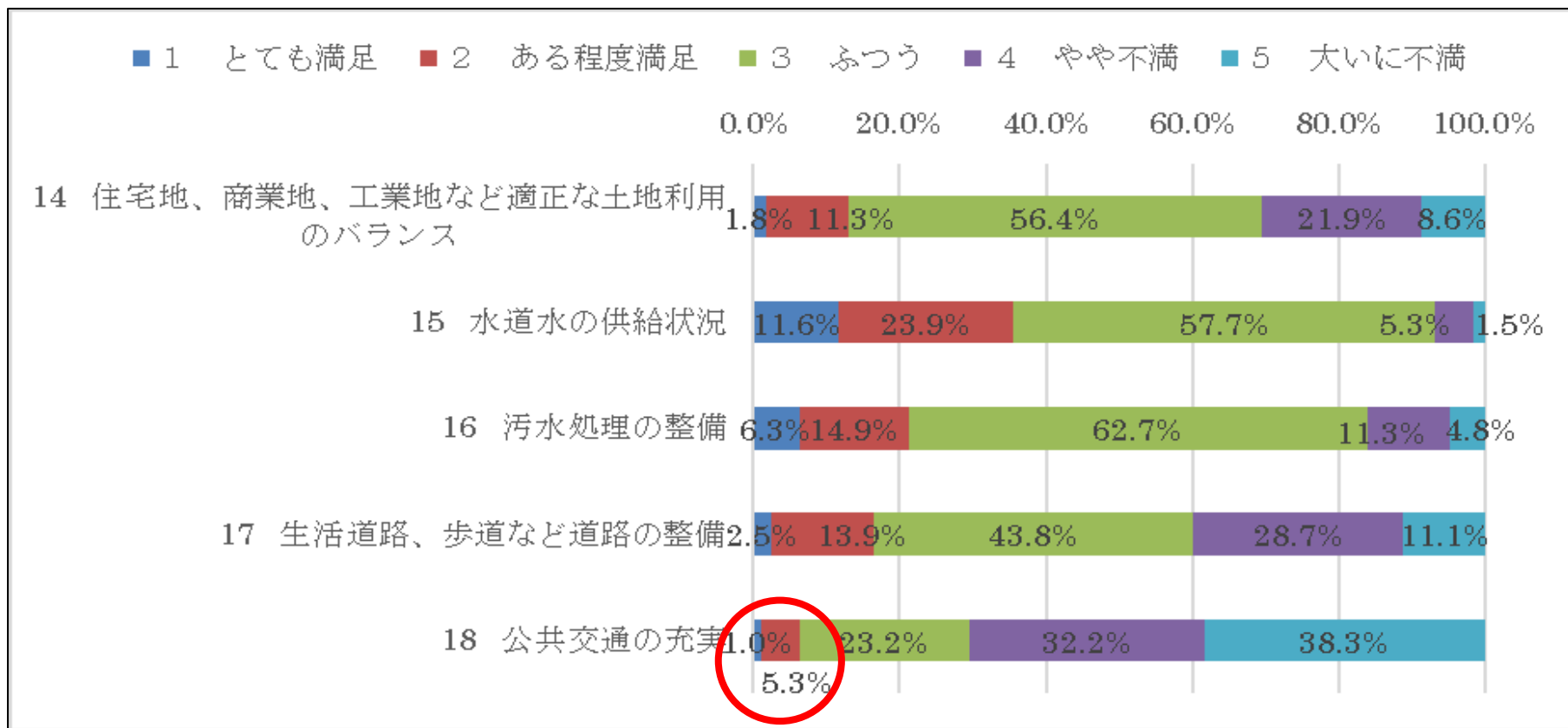


人口減少・少子化が加速



川島町の現状

公共交通に対する満足度



2023年町総合振興計画町民アンケート結果より

満足度約6%



川島町の現状

若者の定住意向

20代の定住意向
は約30%
→全体平均の半分

	ずっと住みつづけたい	どちらかといえば住みつづけたい	いずれは他の地域に転出したい	他の地域に転出したい	その他	総計	住み続けたいと思う町民の割合 (%)
全体	80 20.15%	181 45.59%	108 27.20%	27 6.80%	1 0.25%	397 100.00%	65.7
1 18・19歳	0.00%	4 40.00%	5 50.00%	1 10.00%	0.00%	10 100.00%	40.0
2 20歳代	2 3.85%	15 28.85%	23 44.23%	12 23.08%	0.00%	52 100.00%	32.6
3 30歳代	11 15.71%	32 45.71%	24 34.29%	3 4.29%	0.00%	70 100.00%	61.4
4 40歳代	16 15.09%	48 45.28%	36 33.96%	6 5.66%	0.00%	106 100.00%	60.3
5 50歳以上	51 32.08%	82 51.57%	20 12.58%	5 3.14%	1 0.63%	159 100.00%	83.6

2023年町総合振興計画町民アンケート結果より

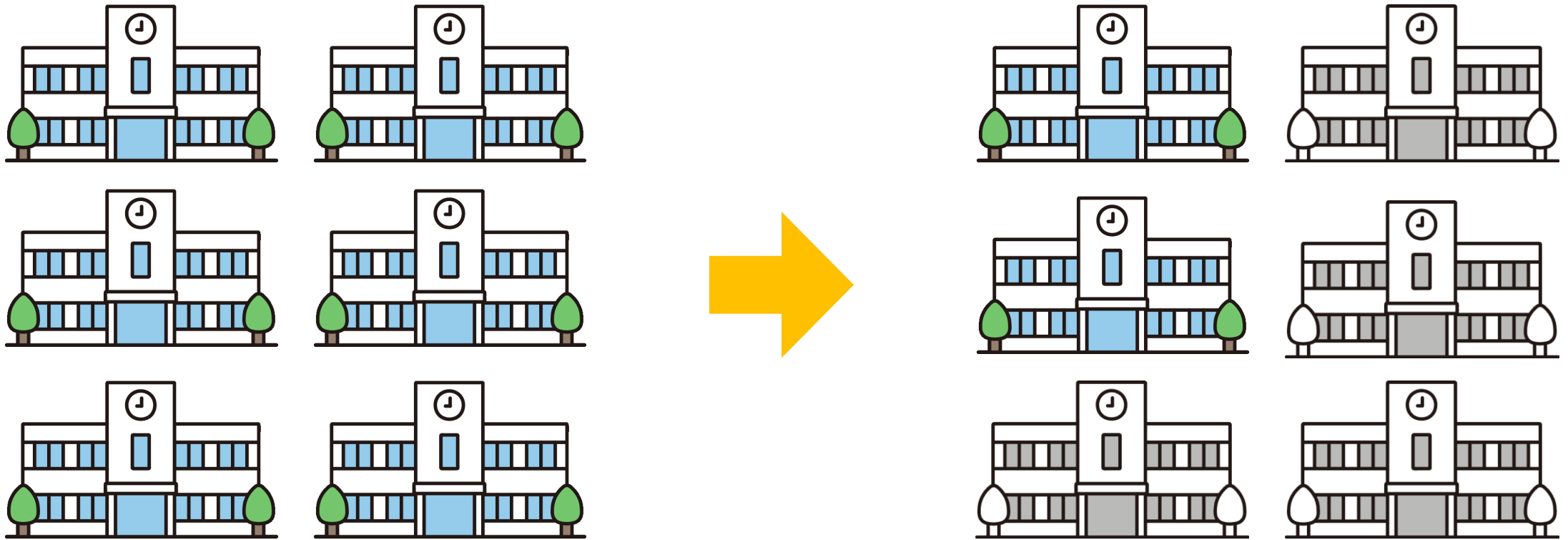
<若者の通学（交通）事情がわかるコメント>

- ・ 駅がないと、町外に出かけるのに不便
- ・ バスの運行本数も少なく、高校生の通学手段が限られる



■川島町の課題

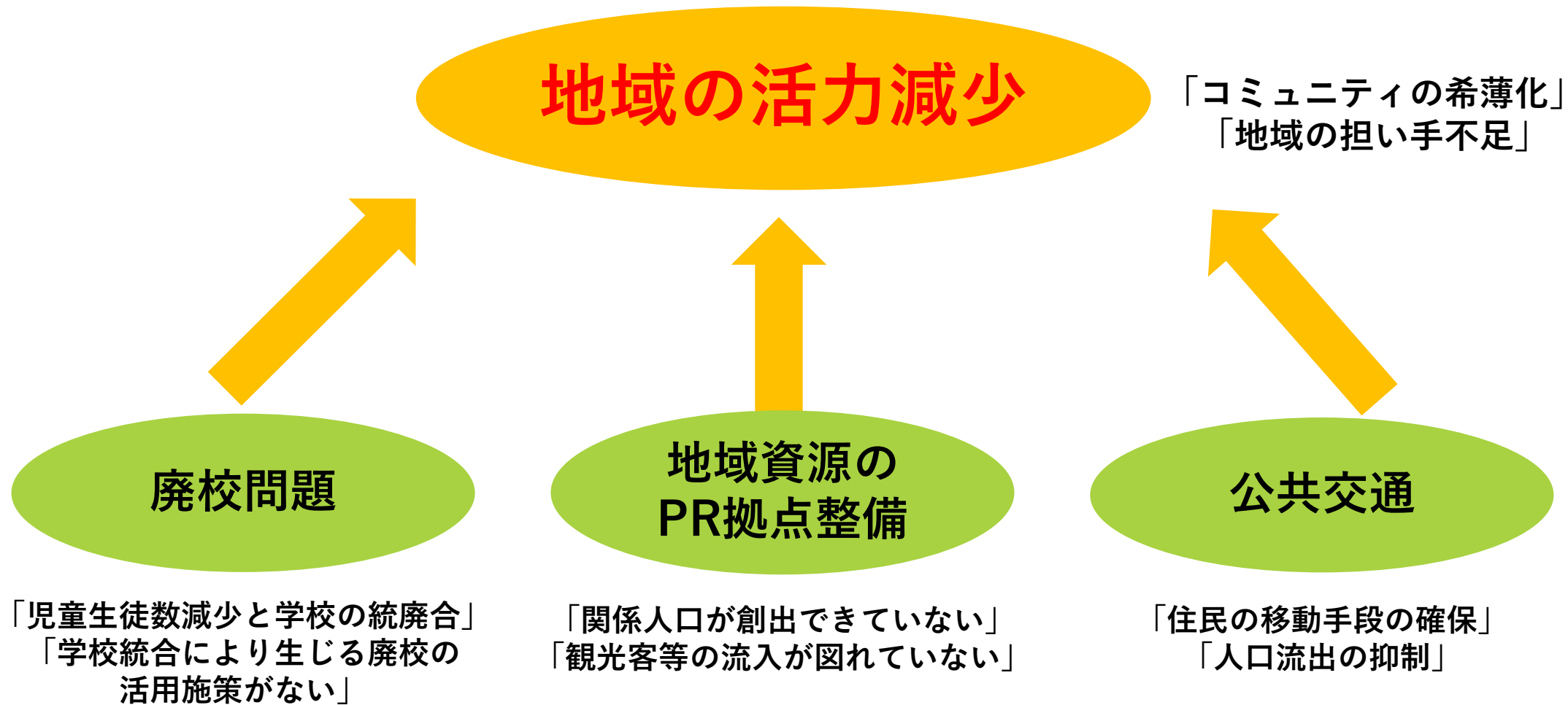
少子化・人口減少による公共施設の統廃合



**小学校の統廃合や公民館の閉館で
遊休施設の活用が課題**



■川島町の課題



様々な課題が存在



■川島町の課題

地域の活力減少

「コミュニティの希薄化」
「地域の担い手不足」

ここに注目

廃校問題

「児童生徒数減少と学校の統廃合」
「学校統合により生じる廃校の活用施策がない」

地域資源のPR拠点整備

「関係人口が創出できていない」
「観光客等の流入が図れていない」

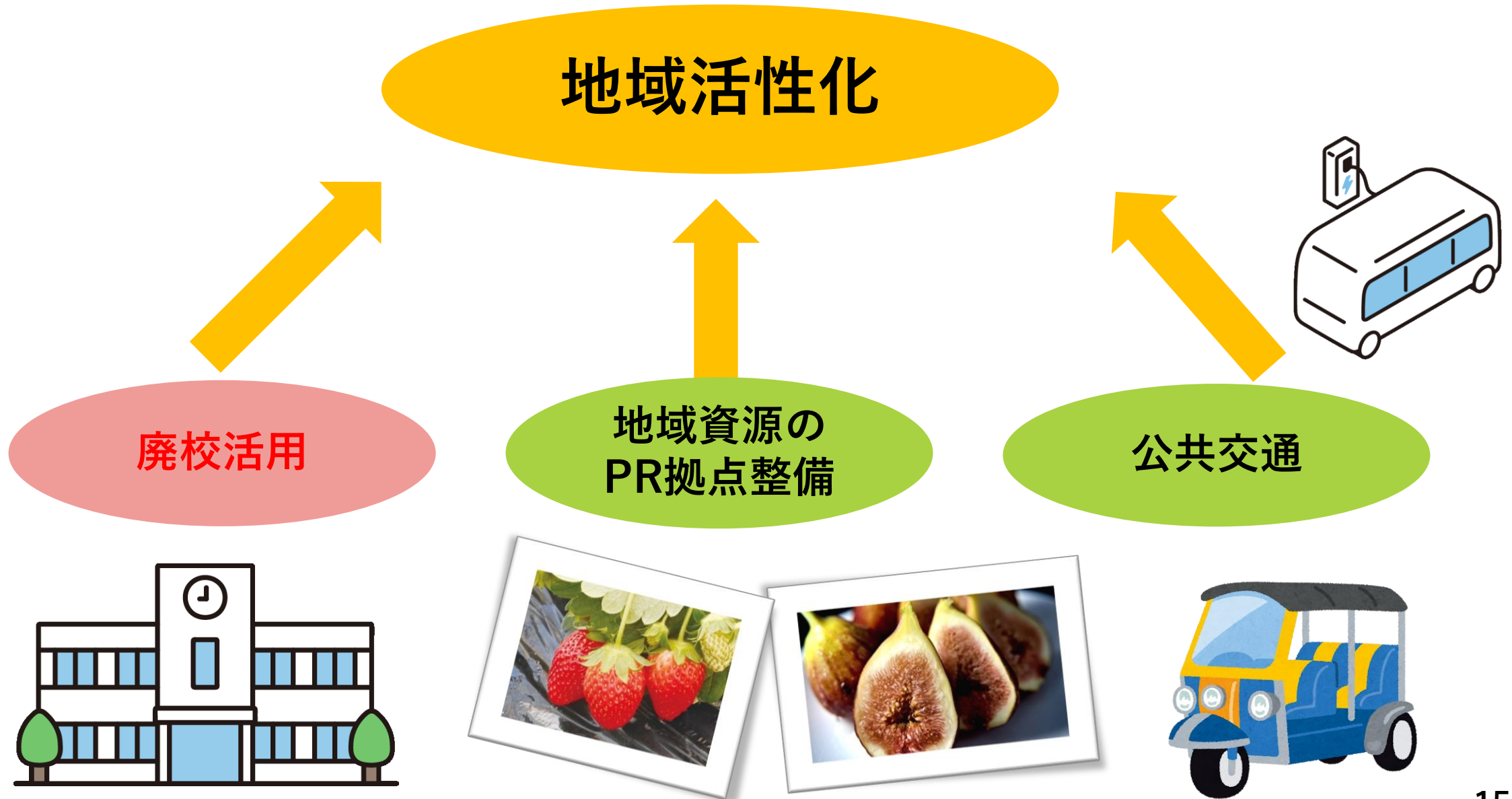
公共交通

「住民の移動手段の確保」
「人口流出の抑制」

まずは廃校問題の解決に取り組む



■企業の皆さまに提案してほしいこと





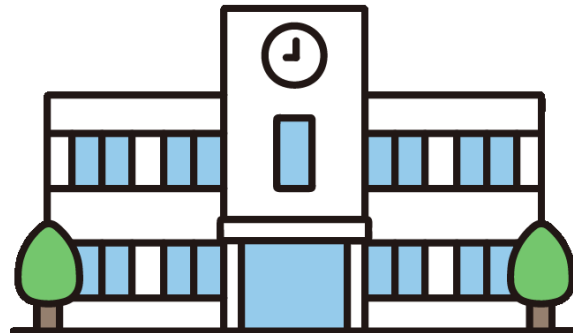
■企業の皆さまに提案してほしいこと



廃校を活用し、
「ちょっとした困りごと」
を解決できる



プラットフォームを整備したい！



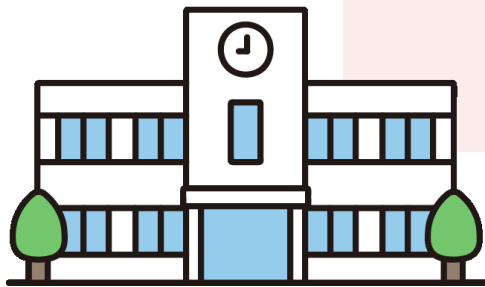


■企業の皆さまに提案してほしいこと

「ちょっとした困りごと」の解決策

例えば…

- ・地域の人たちが集まれる場所
- ・子育て世代が寄り添える場所
- ・子どもたちが気軽に遊べる場所
- ・サイクリストが休憩する場所
- ・地域の教育と教養の場所
- ・地域資源をPRする場所





■ 廃校問題について

市街化調整区域 92.4%
市街化区域 7.6%



つばさ北小学校(2025年～)
活用方法未定



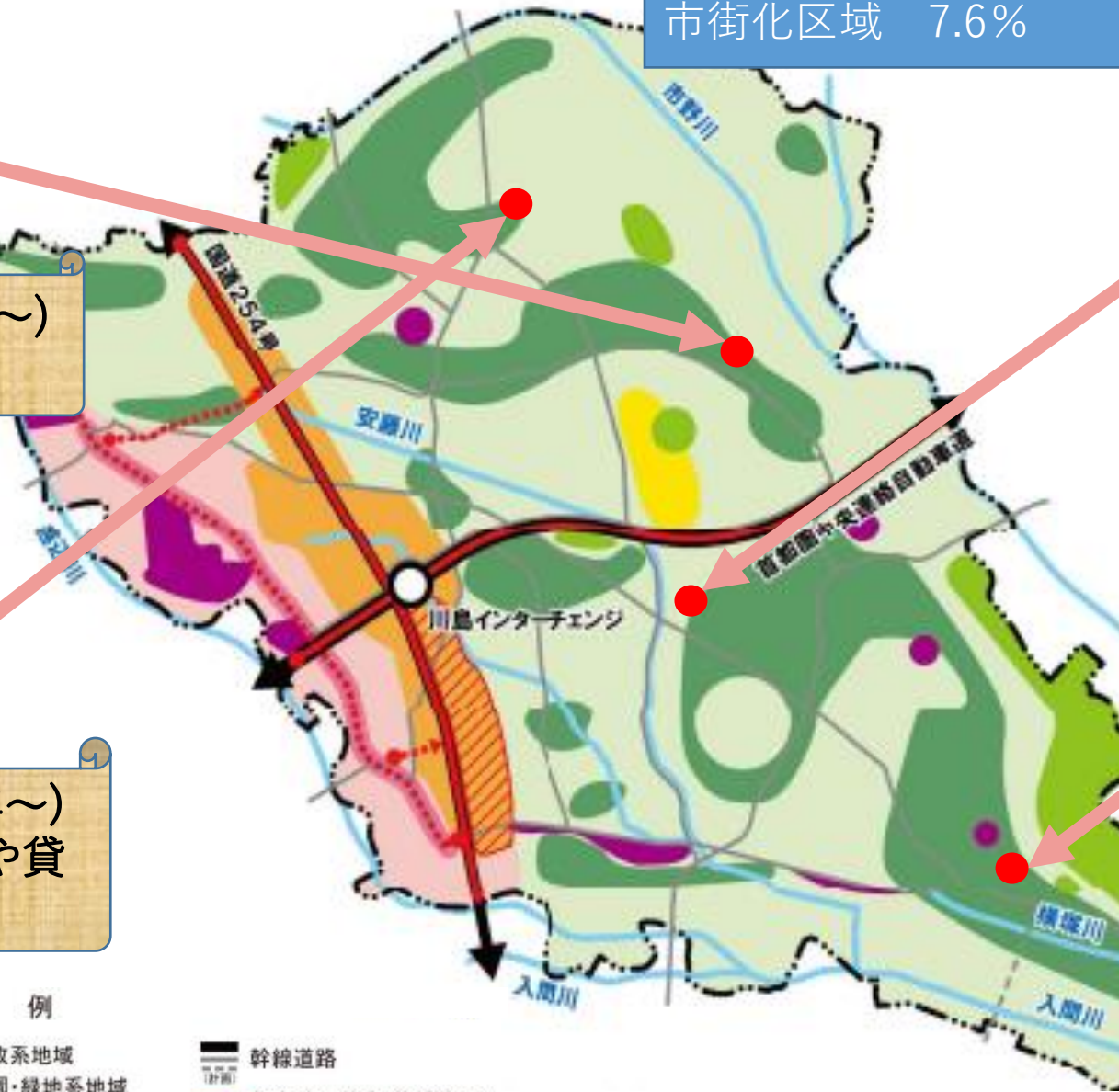
つばさ南小学校(2025年～)
活用方法未定



旧小見野小学校(2018年～)
現在はドラマ等の撮影や貸館利用で運用



旧出丸小学校(2018年～)
現在はドラマ等の撮影や貸館利用で運用



今回のフィールド

- 凡 例
- 住居系地域
 - 沿道複合地域
 - 物流・工業系地域
 - インター周辺重点開発地域
 - インター周辺開発地域
 - 行政系地域
 - 公園・緑地系地域
 - 農業系地域
 - 田園居住系地域
 - 幹線道路
 - 都市計画道路(整備済み)
 - 都市計画道路(未整備)
 - 河川・水路



■ 出丸地区について



川島町の南東に位置する地区

入間川・荒川に挟まれる出丸地区の地名には、河川や水田に関係する地名が多くあり、水とともに暮らしてきた歴史が感じられる

地域性（住民の気質）：共助の気質がある

荒川沿いにある「荒川自転車道」と入間川沿いにある「入間川自転車道」の2つのサイクリングロードが近接

出丸地区全域が市街化調整区域

人口1,345名（538世帯）令和6年7月1日現在
→人口減少が進む（ピーク時約35%減）

最寄りのバス停まで徒歩30分と交通アクセスに課題



■ 「知恵伊豆」と出丸地区の関係

「知恵伊豆」とは

いずのかみ のぶつな
松平伊豆守信綱

「通称：知恵伊豆」

（川越藩主：1639～1662年）

NHK Eテレ「先人たちの底力
『知恵泉（ちえいず）』」は
松平信綱が由来

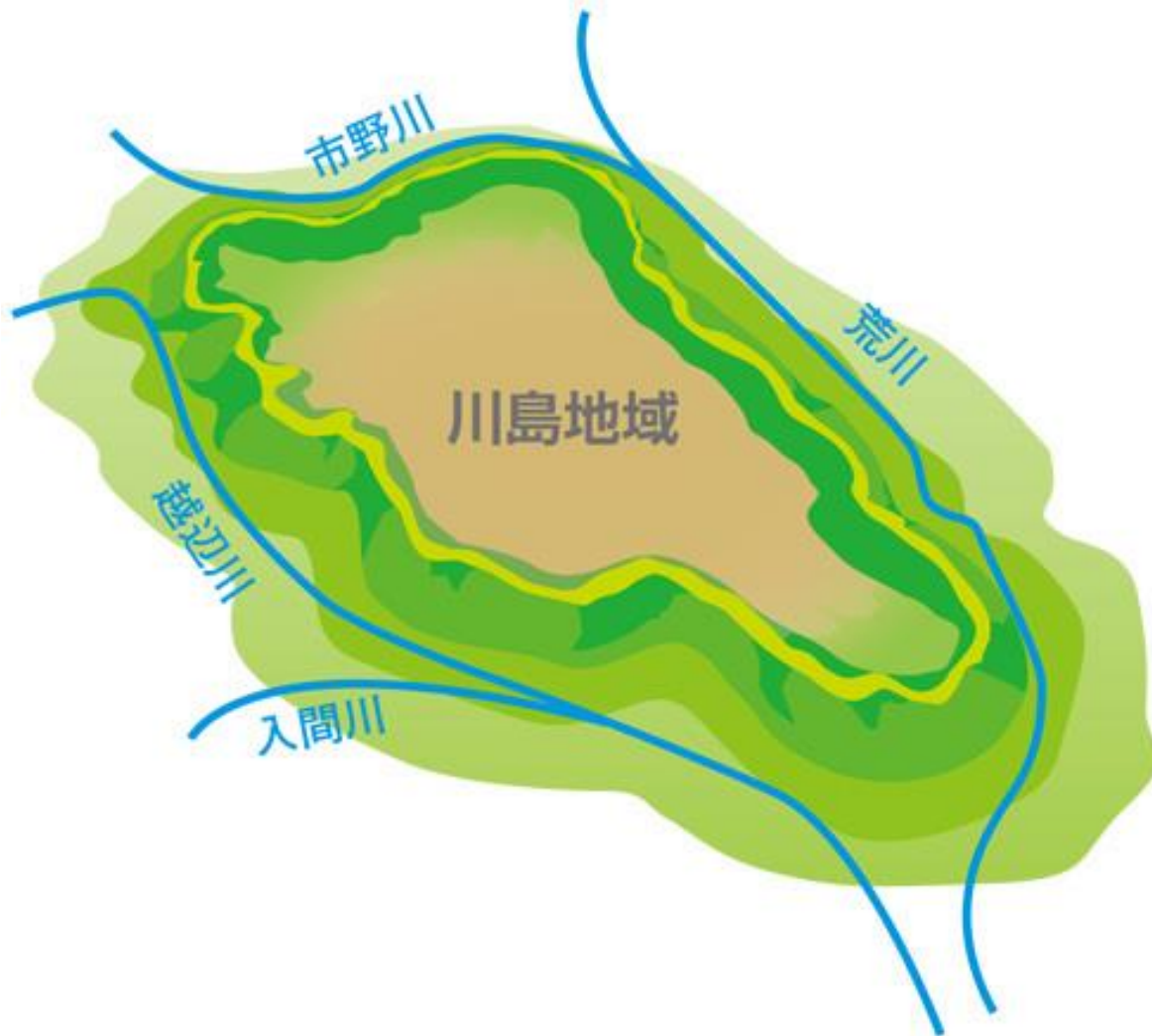
江戸時代初期に活躍した江戸幕府の老中。徳川家光の小姓から取り立てられ、島原の乱の鎮圧や鎖国体制の確立に貢献。

また、川越藩主として荒川や新河岸川などの河川整備や川越街道などの道路整備を行い、川島町を含む川越藩領内の基盤整備にも尽力した。



■ 「知恵伊豆」と出丸地区の関係

川島領大囲堤



川島では川を堤防で囲うのではなく、
地域を堤で囲って守っている。
その基礎は西暦1600年頃に
伊奈備前守忠次により築かれた。

その後、川越藩主となった松平信綱
が堤防の強化に取り組んだ。

信綱の功績は
川島町の地名にも残っている。



■ 「知恵伊豆」 出丸地区の関係

「出丸」という地名の由来

一説によれば、「出丸」の由来は信綱の政治手腕に感激した当時の農民たちが信綱のことを「いでまる（伊豆丸）」と呼んでいたのがそのまま地名になって定着し、後に出丸に改められたという。



**知恵伊豆のように
困った人を助けられる地域や人でありたい**



■ 出丸地区での廃校活用について

旧出丸小学校のご紹介

- 平成30年に廃校
- 現在はドラマや映画等の撮影や、地域団体への貸出、学校開放等を行っている
- 「おいしい給食」ロケ地として有名
- 校庭の真ん中にあるアカメの木がシンボル

校舎 (鉄筋コンクリート造)
昭和51年3月建



体育館 (鉄骨造)
昭和54年2月建





■ 出丸地区での廃校活用について

理想像

地域の中心(シンボル)として
地域の方が気軽に集まれる

「ちょっとした困りごと」
の解決や助け合いができる

サイクリストの休憩場所になり
川島町の魅力が伝わる

気軽に集まることができる
ような公共的交通機関がある



■ 出丸地区での廃校活用について

理想像

まずは出丸地区で廃校活用に取り組む

その後各地区に展開されることで

**「ここが好き、やっぱり好き」
と言われる川島町を目指す！**



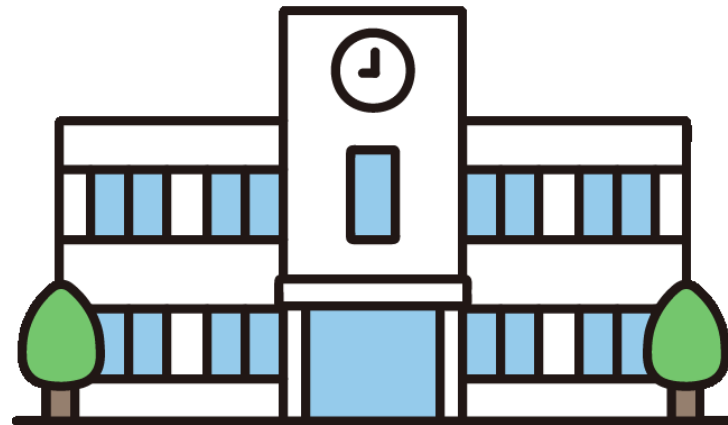
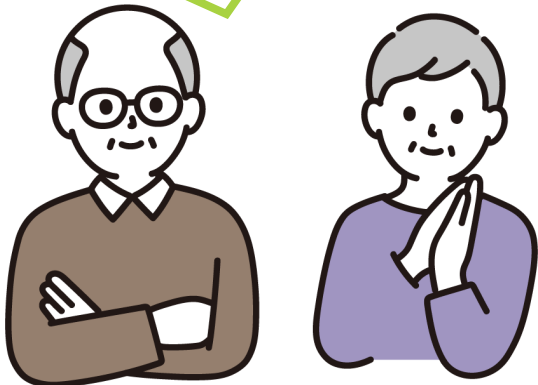
■川島町の将来像・理想像

顔見知りなので、子どもを遊ばせていても安心！



廃校舎を活用した施設で川島町のことを知ることができた！

地域のつながりが強いので、気軽に相談ができる！





■ 廃校利用者のペルソナ

① 川島町内在住の子育て世帯

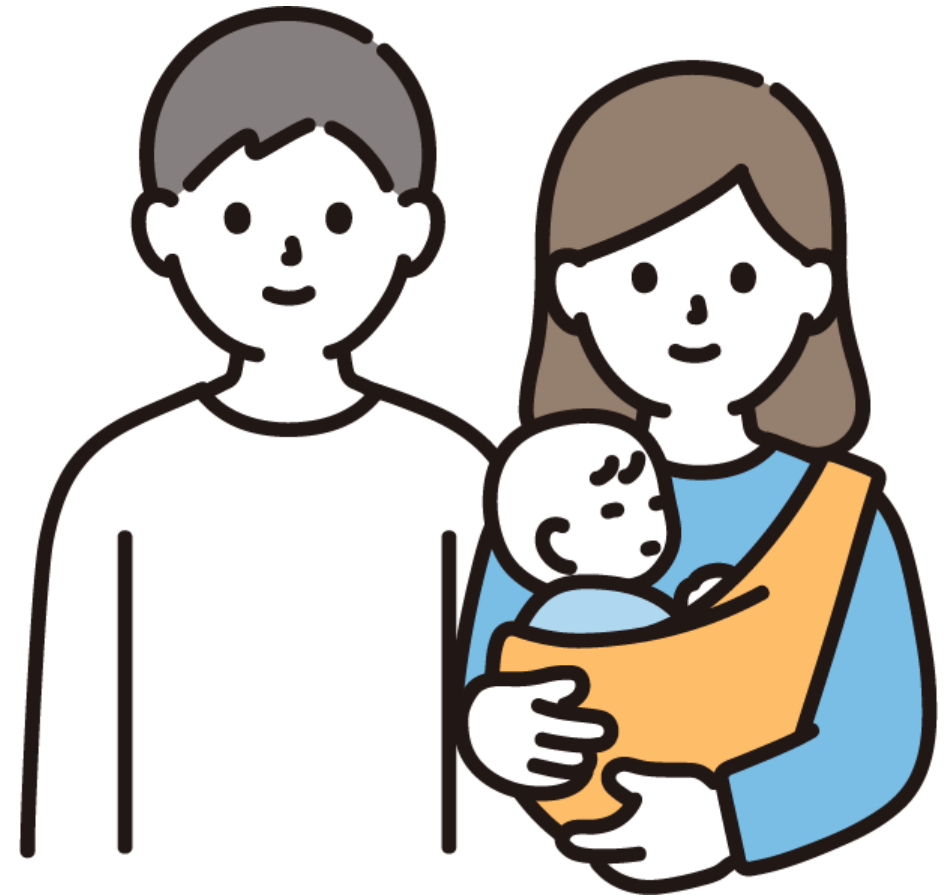
名前 夫：川島 太郎（30歳）
妻：川島 花子（30歳）
子：川島 一郎（1歳）

住まい 伊草地区（川島町内の市街化区域）

仕事 夫は都内で勤務。妻は子育てのため休職中

生活 保育園入園前で、子ども中心の生活を送っている

思い 結婚を機に川島町に転入したため、地元のつながりがない
子育てに関する相談相手や、相談の場が欲しい





■ 廃校利用者のペルソナ

② 川島町内在住の高齢者世帯

- 名前 夫：川島 一男（70歳）
妻：川島 米子（70歳）
- 住まい 出丸地区（市街化調整区域）
- 仕事 定年退職済み
- 生活 仕事を退職し、悠々自適な生活を送っている。仕事中はあまりできなかった地域とのつながりを持ちたいと思っている
- 想い 地域の人と気軽に交流できる拠点が欲しい。お茶飲み感覚で友達作りをしたい





■ 廃校利用者のペルソナ

③ 自転車で来訪したビジネスパーソン

名前	埼玉 一郎（35歳）
住まい	さいたま市
仕事	都内IT企業で勤務
生活	テレワーク等で時間を自由に使えることから、時々趣味の自転車で遠方までサイクリングをする
想い	サイクリング中の休憩場所が欲しい。 せっかくだから通過する地域のことをよく知りたい





■川島町が提供できるリソース

実証フィールドと
なる廃校の調整と提供

町広報や
HP等での
広報活動

同様に廃校の
利活用方法に
課題が生じている
自治体への
横展開の可能性

必要に応じた
予算調整と
関係機関との
連絡調整





■まとめ

【川島町の課題】

人口減少による廃校問題や地域活力の減少

【企業から求める提案】

「ちょっとした困りごと」の解決策

【理想像】

**廃校が地域活動の拠点になり、地域や町のPRができる
⇒地域活性化へ！**